

## ●新刊図書紹介 (★・・・ピックアップ図書 3ページ目に詳細を記載しています)

図 書 名	著 者	出 版
地 方 自 治 ・ ま ち づ くり		
★ 自治体政策立案入門 実務に活かす20の行政法学理論	宇那木 正寛	ぎょうせい
★ 生き心地の良い町 ―この自殺率の低さには理由がある	岡 檀	講談社
教 育		
★ 図解・表解 教育法規 新訂第2版	坂田 仰、河内 祥子 ほか	教育開発研究所
技 術 ・ 工 学		
マンガで教えて・・・テクノ君！水素エネルギー	水素エネルギー協会(監修)	日刊工業新聞社
そ の 他		
見やすい！伝わる！公務員の文書・資料の作り方	秋田 将人	学陽書房
一目で伝わる！公務員の図解で見せる資料の作り方	田中 富雄	学陽書房

### もっと知りたい！和歌山城 その④ 今も残る江戸時代の建物たち（城外編）

#### 和歌山城の台所が残されていた！ 紀州徳川家ゆかりの光恩寺

前回、江戸時代から残る和歌山城の数少ない建物として「岡口門」、「追廻門」などを紹介しました。実はそれ以外に、和歌山城の御殿の一部が移築され、今も残されているのをご存知でしょうか？

それが、市内大垣内にある「光恩寺(こうおんじ)」というお寺の庫裡(くり)です。この庫裡は、明治13年(1880)、和歌山城本丸御殿の御台所を移築したもので、市の指定文化財に指定されています。本丸御殿とは、山の上にあった御殿で、藩主が時々謁見の場として使っていた建物でした。

この庫裡の瓦には徳川家の葵の紋があしらわれ、さらに御殿で使われていた杉戸絵も残されており、和歌山城の建物であった名残が今でも見受けられます。御殿の御台所ですら、このような立派な戸が使われていたなんて、建物の豪華さが想像できるような気がしますね。

現在、和歌山城の御殿の一部が残っているのはここだけで、焼失前の和歌山城を知るととても貴重な建物となっています。

光恩寺庫裡の杉戸絵 →



光恩寺庫裡



紀州御殿

余談ですが、なんと大阪城にも和歌山城の建物が移築されています。「紀州御殿」と呼ばれていたこの建物は、明治18年(1885)に和歌山城二の丸御殿の大広間(公式行事をする場所)を中心とした部分を移築したもので、陸軍の庁舎として使用されていました。また、天皇が大阪城を訪問する際の行在所(あんざいしょ)としても使われていたそうです。紀州御殿は奇跡的に戦火を免れたものの、不運なことに失火により昭和22年(1947)年に焼失し、現在では写真でその姿が残されているのみです。

和歌山城にはこのように素晴らしい建物があったにもかかわらず、多くが失われてしまっていることはとても残念に思います。いつの日か、江戸時代の建物が再現された和歌山城をこの目で見てみたいと思わずにはいられません。

参考文献:「和歌山城 ―その歴史と文化―」 和歌山市立博物館